夜の歌

暗いおそろしい岩のあひだをくぐり抜けて来て
僕たちは坐る場所を見つけた
さあ　ここで　二人で夜の波を眺めよう
頭上の岩に木の影が何本か立つてゐる
屏風のやうにしつかりと黒くそびえ立つた岩の肌
屏風のやうにかこんでゐる岩の肌
えぐりとられてゐるが
その上に木の影が何本か立つてゐる
ここには誰もゐない
しづかに僕の腕の中にからだをもたせかけるがいい
とびあがる白い波
向うの大きい岩にすつぽりと白い網をかけてゐる
残つた水が網をひきしぼると
したたりが細く早く白く糸のやうに見える
音が聞えて来る
また　うちあげる音が
新しい音をたててゐる
海が二人の前で遊んでみせてゐるのだ
あそこは両側から岩がせまつて入り江のやうになつてゐる
水がしぼられるやうに深く入つて来るので
水面がものすごく高くなる
水がひく時には急に水面がひくくなる
ほら　ごらん　打ちよせて来ると
僕たちの坐つてゐる場所よりずうつと上の方まで
白いものが散つてゐる
おびえてゐるお前の目の中で波が散つた
お前の目がかがやいて見える
僕にすがりつきながら僕を逃げようとしてゐる
僕をしりぞけながら僕にあたたかいくちびるをよせてくる
選ばれた者だけに　海はあのいたづらを見せるのだ
暗い中に散らかし放題に白いものを散らかして
さつと片づけて低い岩の根を見せるのだ
岩の根はずゐぶんたくさんの穴があいてゐてみにくいけれども
黒い水はしづかにかくしてしまふ
ふたたび生き生きとはげしくゆれはじめる
どうしてお前はからだをそらせるの
僕は腕の中にお前のくねつた重みを感じる
お前は僕の腕の中でからだをふんばるやうにして

首をのけぞる
お前ののどが　たひらに白く見える
お前の目の中にはたくさんの星が見えてゐると言つてゐる
お前ののどが動いてゐる
お前の目の中にはずうつとうしろの方の
僕たちがくぐり抜けて来た岩のあたりにも
おそろしい荒れ狂つた波が白くもりあがつてゐると言つてゐる
僕たちはもうどこにも帰れないと言つてゐる
お前の目の中にはたくさんの星がしづかにまたたいてゐると言つてゐる